

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

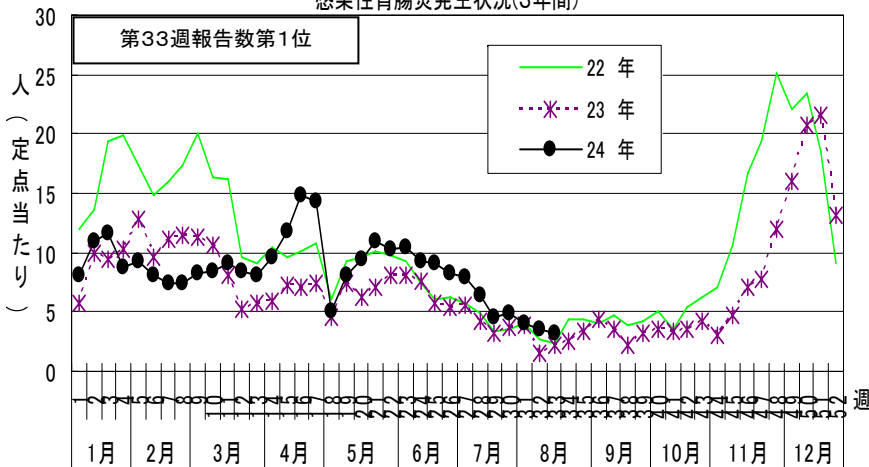
平成24年8月13日（月）～8月19日（日）〔平成24年第33週〕の感染症発生状況

第33週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)ヘルパンギーナ 3)手足口病でした。

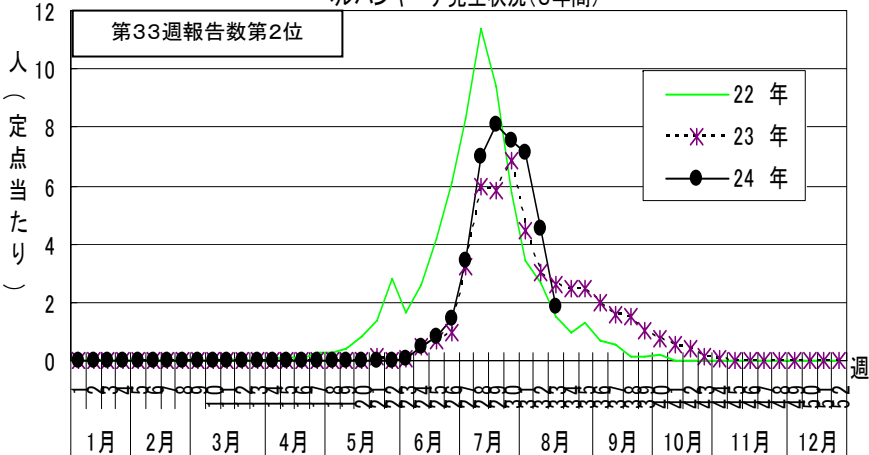
感染性胃腸炎は定点当たり3.17人と前週(3.53)より患者報告数は減少しましたが、例年よりも高いレベルで推移しており、特に川崎区で報告が多くなっています。ヘルパンギーナは定点当たり1.83人と前週(4.50)より患者報告数は大幅に減少し、例年よりも低いレベルで推移しています。

風しんの届出が4件あり、6月以降、例年を大きく超える流行が続いています。妊娠初期の女性が風しんに感染すると、難聴・心疾患・白内障等の障がいをもった赤ちゃんが産まれる可能性があります。これらの障がいを先天性風しん症候群といいます。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



## 合言葉は、「洗手必焼（せんでひっしょう）！！」

全国的に、腸管出血性大腸菌感染症の届出が急増しています（グラフ参照）。  
腸管出血性大腸菌は感染力が強く、数十個～100個程度の少量の菌で発症することから、大規模な集団発生事例になることがあります。汚染された食品から感染しないように、また患者から2次感染しないように、日頃から手洗いなどの予防策を徹底することが大切です。

### ～食品から感染しないために～

1. こまめに手を洗う
2. 食品を衛生的に取り扱う
3. 生肉等を加熱(75℃で1分以上)する
4. 調理器具等は食材毎に使い分け、清潔にする

### ～患者から2次感染しないために～

1. こまめに手を洗う
2. 患者の便からの経口感染に注意する（オムツ交換時は要注意）
3. 便のついた衣類・寝具などを消毒する
4. 患者は入浴やプールを控え、シャワーですませる

